

## 「令和3年度 教員免許状更新講習」

### 1 趣 旨

教員が体験学習の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

### 2 事業の概要

(1) 期 日 令和3年8月6日(金)～8日(日)【2泊3日】

(2) 参加者 6名(島根県3名、広島県3名)

(3) 研修内容及び講師

日付	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
8/6(金)		受付	開講式	講義①	休憩	講義②	休憩	講義③					
8/7(土)		講義④	実習①			休憩	実習②			休憩			
8/8(日)		実習③			休憩	履修認定試験	閉講式						

講義①「学校教育活動と体験的な学習・体験活動」(1時間30分)

講師 国立三瓶青少年交流の家 所長 野津 孝明

講義②「子どもの成長期における体験活動の重要性」(1時間30分)

講師 鳥取短期大学幼児教育保育学科 教授 近藤 剛 氏

講義③「自然体験活動の意義(目的)と子どもたちへの効果」(2時間30分)

講師 鳥取短期大学幼児教育保育学科 教授 近藤 剛 氏

講義④「集団宿泊活動の現状と効果的な指導法」(1時間)

講師 国立三瓶青少年交流の家 事業推進室長 宅間 邦晴

実習①「ねらいに応じた野外炊事の理解と実際」(3時間30分)

講師 国立三瓶青少年交流の家 事業推進室長 宅間 邦晴

実習②「学級経営に活かせる体験活動の指導法」(3時間30分)

講師 広島県教育委員会事務局学びの革新推進部生涯学習課 社会教育監 杉本 克之 氏

実習③「子ども達がワクワクする自然観察の技術」(3時間)

講師 島根県立三瓶自然館「サヒメル」 学芸課長 井上 雅仁 氏

### 3 事業の内容

(1) プログラムデザインと企画のポイント

本事業は教員免許状更新講習の選択領域「教科指導・生徒指導その他教育の充実に関する事項」の履修を目的としている。主な対象は小学校教諭で、2泊3日の日程を通して、18時間分の講習を受講することができる。体験活動への理解がより深まるよう、講習の内容には、講義形式に加え、実習など、体験的な活動も多く取り入れた。

## (2) 運営のポイント

集団宿泊活動や自然体験活動を提供する施設の長所を活かし、野外炊飯や自然観察など、実際の活動を通して、指導のポイントや安全上配慮すべきことが学べるよう、講習内容を計画した。また、受講者がそれぞれの職場に持ち帰り、日常の指導に活かすことができる内容を重視し、人間関係づくりのためのアクティビティ体験や理論の学習を取り入れた。さらに、新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、マスク着用や手洗いの徹底、一部屋一人ずつの宿泊室の割り当て、ゆとりをもった研修室の座席配置、定期的な換気、検温の徹底、研修後の消毒作業等を行った。

## 4 参加者へのアンケート結果

### (1) アンケートの集計

(%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
講習の内容・方法	100	0	0	0
新しい知識・技術の習得について	100	0	0	0
運営面	100	0	0	0

### (2) 参加者の声

- ・実践に基づいた内容が多く、自らの教育活動を振り返る機会となりました。
- ・体験学習・学級経営・授業づくりに活かせるものばかりでした。
- ・講習での体験活動が多く、理論の理解が深まりました。
- ・一つ一つの講義の講師の方のご指導から、学校現場での日々の活動に新しい取組を取り入れるための視点をいただきました。
- ・想像をはるかに超えて楽しかったです。知らないことだらけでした。何もかも、新しい知識でした。
- ・何もかもが新しい発見であり、学ぶ楽しさを感じました。
- ・アットホームな研修で、居心地のよい3日間を過ごさせていただきました。
- ・体験活動について、今回初めて学んだと思います。これから続けて学んでいこうと思います。

## 5 成果と課題

### 《成果》

- ・体験活動と、それに関わる理論の両方を学べる研修を取り入れた。その結果、受講者から、「どの講義や実習も内容が一貫しており、大変わかりやすかったです。」「一つ一つの講義の講師の方のご指導から、学校現場での日々の活動に新しい取組を取り入れるための視点をいただきました。」など、多くの肯定的な意見を得ることができた。
- ・少人数ということもあり、受講者同士が宿泊や野外炊飯、体験学習の実習などを通して、次第に打ち解け、笑顔や会話も日に日に増えていった。休憩時間には、講義の内容を互いに確認し合う姿が見られ、また、周辺施設を利用してさらに学びを深めようとする姿も見られた。受講者自身が自らの体験を通して、集団宿泊活動や自然体験活動への理解を、より深めることができたのではないかと考える。

《課題》

- ・本年度も、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、定員を20名にして募集したが、島根県から3名、広島県から3名の合計6名という少人数の参加となった。参加者からは、「広島の先生方にももっとこの講座をPRしてください。」という要望もあり、来年度へ向けて、広報の仕方を考えていく必要がある。
- ・2泊3日を通して、炊飯活動やアクティビティ体験などの体験活動を多く行った。受講者の評価は高かったが、最終日には認定試験もあり、一部の受講者には若干の疲れも見受けられた。事業運営には、新型コロナウイルス感染症対策も含め、安全面等に細心の注意を払ったが、日程・内容ともに来年度に向けて検討し、さらにより学びの場としていきたい。
- ・教員免許状更新制度について、今後の動向に注意し、情報収集するとともに、新たな動きに対応できるようにしておく必要がある。



野外炊飯

講義



屋外でのアクティビティ

身体接触を避けたアクティビティ

(担当：企画指導専門職 上 正美)